

「福島おおざそうインター工業団地」

「(仮称)道の駅ふくしま」



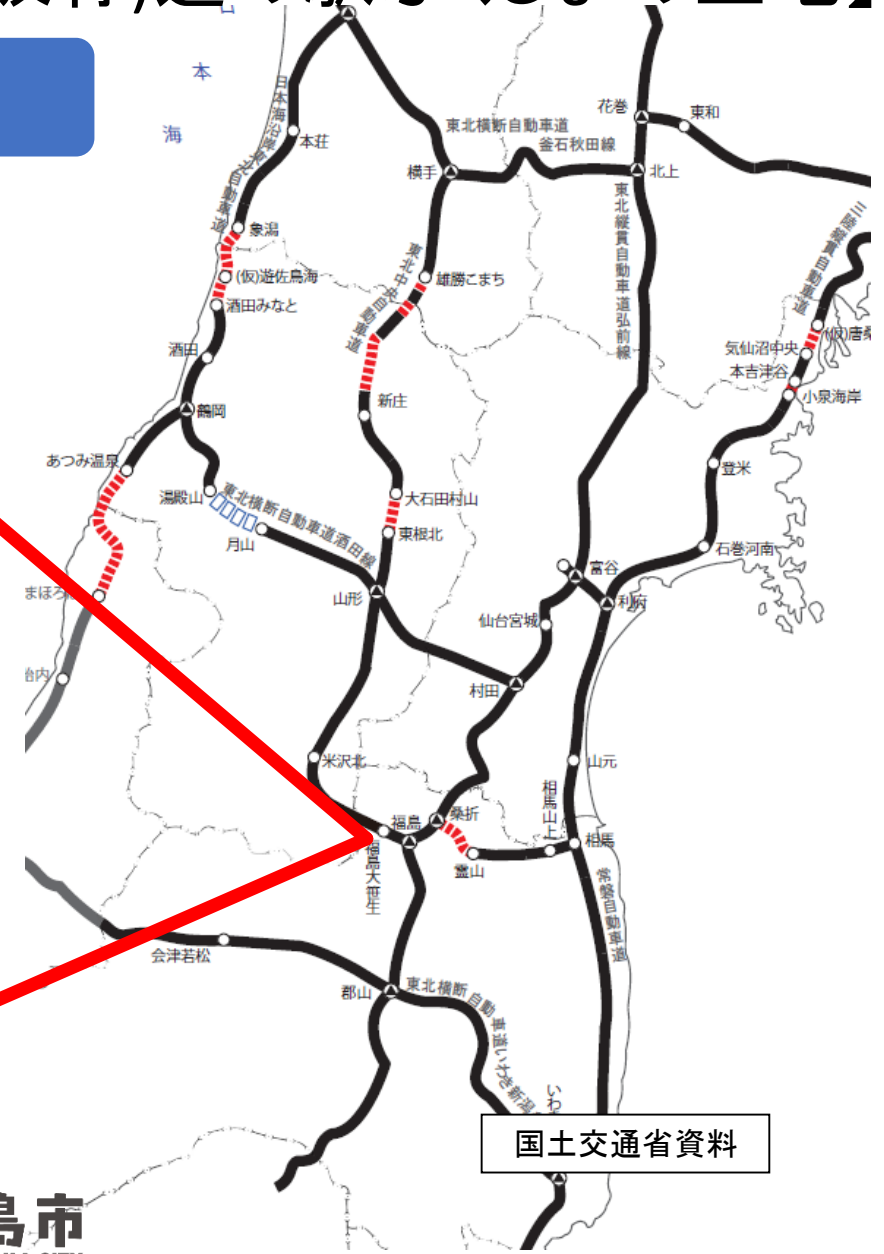
1. 【福島おおざそうインター工業団地・(仮称)道の駅ふくしまの立地】

高速交通網の結節点 = 福島大笹生IC

道の駅整備予定地



福島おおざそうインター工業団地
(R元年度 造成完了)



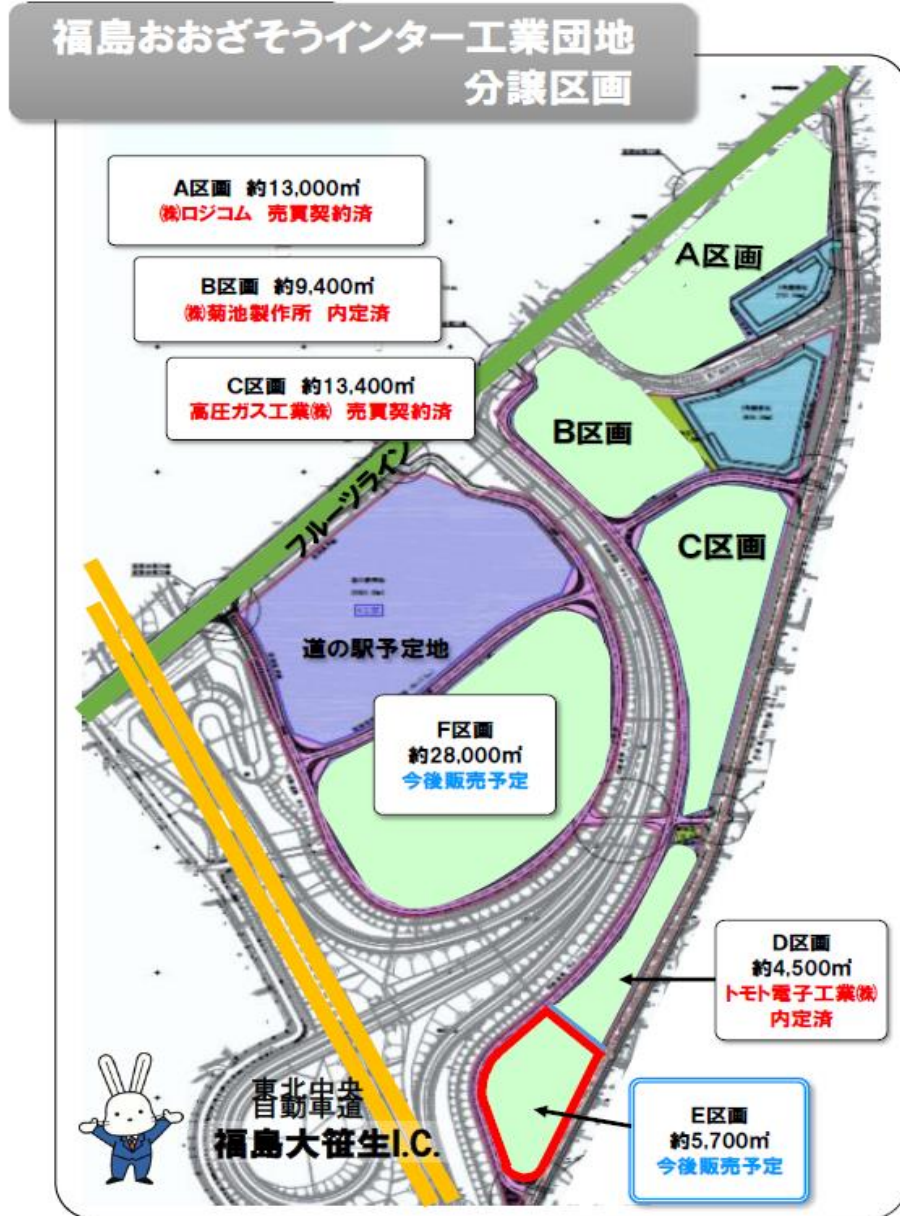
国土交通省資料



2. 【工業団地、道の駅のスケジュール】

	東北中央自動車道	福島おおぞらインター工業団地整備	(仮称)道の駅ふくしま
平成26年度		2月 福島市新工業団地整備基本構想策定	
平成28年度	9月11日 福島JCT～福島大笹生IC開通		
平成29年度	11月4日 福島大笹生IC～米沢北IC開通	11月 福島市都市計画審議会(大笹生地区計画) 12月 開発許可申請及び農地転用申請 2月 開発許可及び農地転用許可 3月 用地買収完了	3月 地域振興施設「道の駅」基本計画策定
平成30年度		6月 造成工事着工	実施設計(～令和2年3月)
令和元年度	4月13日 南陽高畑IC～山形上山IC開通	1月 造成工事竣工	1月 重点道の駅に選定
令和2年度			道の駅建築、外構工事
令和3年度			
令和4年度			(春) 開業予定

3. 【福島おおぞらインター工業団地立地状況】



★傾向★

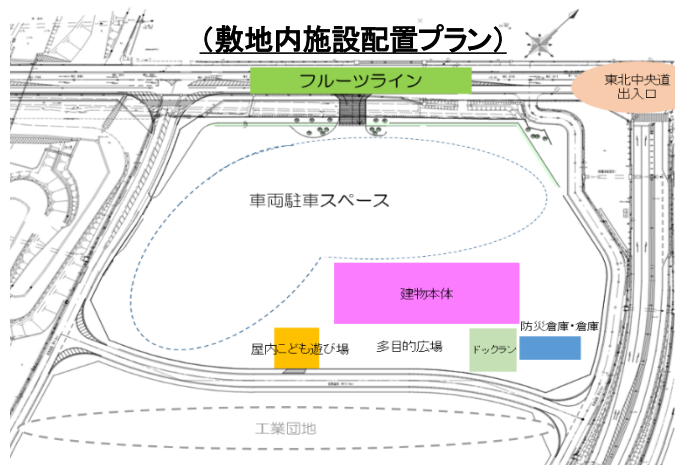
東北中央自動車道「福島大笹生I.C.」直結の工業団地という高い交通利便性を評価しての立地。

東北中央自動車道をはじめとした物流網を利用し新規取引拡大や各地の自社拠点との連携を図る予定。

4. 福島おおぞそうインター工業団地整備及び分譲のスケジュール

時期		福島おおぞそうインター工業団地整備	各区画分譲の状況						
			A区画	B区画	C区画	D区画	E区画	F区画	
平成27年	2月	福島市新工業団地整備基本構想策定							
平成29年	11月	福島市都市計画審議会（大笹生地区計画）							
	12月	開発許可申請及び農地転用申請							
平成30年	2月	開発許可及び農地転用許可							
	3月	用地買収完了							
	4月	用地所有権移転登記完了							
	6月	造成工事着工							
	9月			分譲先内定					
	11月			立地基本協定締結					
令和元年	10月		分譲先内定		分譲先内定				
	11月		立地基本協定締結						
令和2年	1月	造成工事竣工	売買契約締結						
	2月				立地基本協定締結	分譲先内定			
	6月				売買契約締結				

5. 【(仮称)道の駅ふくしまの整備スケジュール】



整備スケジュール

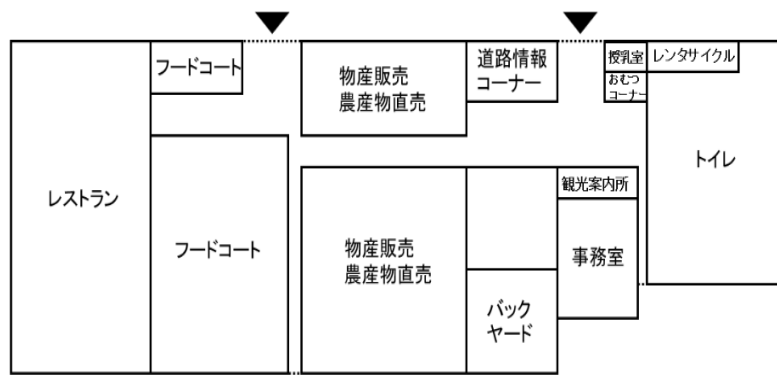
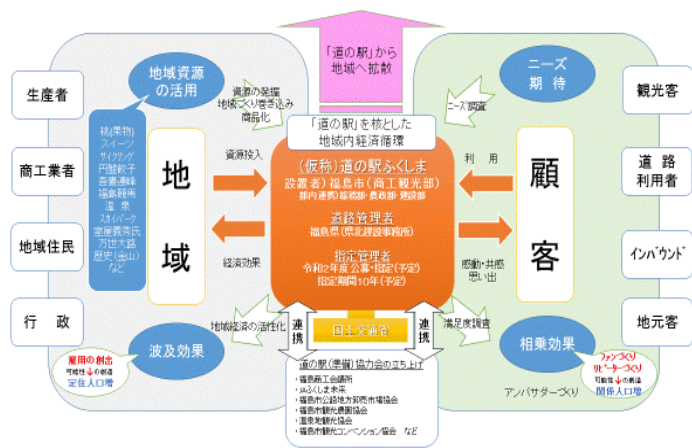
令和元年度 実施設計

令和2～3年度 道の駅建築工事・外構工事、愛称募集・決定、道の駅登録

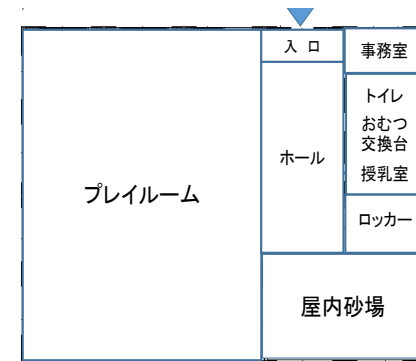
令和4年度(春)開業予定

6. 【重点道の駅としての提案】

- 「高速交通網の結節点」という地の利を活かし、東日本大震災・原子力災害からの復興の象徴として、人口減少社会に対する持続可能な地域づくりのため、道の駅を『「実・湧・満・彩」の地域振興の拠点』として位置付け、「集客・交流の新たな拠点」「情報発信の新たな拠点」「地域産業の新たな拠点」の3つの柱とする。
- 道の駅敷地内に快適で「木質感溢れる(CLT活用)屋内こども遊び場」や24時間利用可能な授乳コーナーやおむつ交換スペースを整備し、地域の子育て世代を応援するとともに、子ども連れの道路利用者への休憩機能を補完する。
- 平成30年に実施した「東北中央道と『道の駅』の活用による地域活性化社会実験」結果を踏まえ、レンタサイクル(電動アシスト自転車)を整備し、通称「フルーツライン」周辺の果樹畑の景観や日本風景街道登録ルート等の地域資源を活用したサイクルツーリズムを展開する。



(道の駅建物本体レイアウト)



(屋内こども遊び場レイアウト)

- 東北自動車道と東北中央自動車道の結節点という特徴から、道路休憩機能を整備するとともに、「『実・湧・満・彩』の地域振興の拠点」として、地域産品等の紹介・提供等により集客・交流を生み出しながら、「道の駅」をゲートウェイとして、来場者を積極的に地域に送り出すことにより、持続可能な地域づくりを目指す。
- 道の駅建物本体とは別に「屋内こども遊び場」を約500㎡の別棟として、天候等に左右されることなく通年で遊べる場所を整備。子どもの健やかな成長を支援し、地域の子育て世代を応援するとともに、子ども連れの道路利用者への休憩機能を補完する。
- 東日本大震災の経験を踏まえ、道の駅敷地内に防災備蓄倉庫や40tの飲料水が貯水可能な耐震性地下貯水槽、太陽光を活用した電気供給設備を整備し、防災拠点機能を持たせることで、平時より災害に備える。

- 道の駅に整備する飲食・物販施設に、市内事業者等のアンテナショップの機能を持たせるとともに、新商品のテストマーケティングの場としても位置づけ、新たなムーブメントが发起可能な地域産業の新たな拠点
- レンタサイクル(電動アシスト自転車)の整備、地域資源等を活用したサイクルツーリズムの展開、サイクリスト等への快適性提供のためのシャワールーム整備、観光コンシェルジュ等によるサイクリングモデルコース等の案内
- 観光コンシェルジュ等による旬な果物狩り情報や地域観光情報の紹介、インバウンド対応
- 屋内こども遊び場、授乳室、オムツコーナー、屋根付き思いやり駐車スペース等の整備
- EV充電設備、ドッグラン、多目的広場などの道路休憩機能の整備
- 防災備蓄倉庫、40tの飲料水が貯水可能な耐震性地下貯水槽、太陽光発電等の整備

